THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

遞信省認可

明治二十年八月五日

定價金四錢

女學雜誌

第六十八號

毎月三回發行

績文舍

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

目錄

（女學叢誌）男女の未來（續稿）●（中外新報）少女賣淫嫌疑事件其他數十件●（學藝一斑）心意發育論（續稿）●（賢女傳）花がたみ、（第一回）此君園主人●（論說）金蘭會に望む　末松謙澄君演說○歐洲商業教育（前號の續き）●（新作物語）閨の徹夜燈（第二篇）南翠外史述●（家政要報）西洋料理の簡便法（前號の續き）○物價諸相場●（御伽草）數學問題○歌詩指名○第六十五號數學問題答式○第六十五號考物の答●（寄書）幼稚保育の心得（前號の續き）○獨語（第六十五號の續き）

女學叢誌

○男女の未來　（續稿）

余輩が以上月に亘り號を重ねて論じたるが如く今度幾久しき歳月を經たる末にハ男女の關係 驚く計りの變遷を爲し社會の事にまれ一家の事にまれ女子も男子も打ち混じて其業務を執るに至るべし果して斯る世と爲りぬれバ今日の社會の如く是れハ男子の執るへき業務なり是れハ女子の務むへき仕事なりなどの區別ハ自然消滅するに至るへし何となれば女子も男子も打ち混じて同し業務を執り優者劣者に據て其執る所の業務に區別を立つるの必要こそあれ男女に依て之れが區別を立つるとハ既に無用に歸し了りぬれバなり今試みに心を數百年の未來に馳せ男女同職の有樣を想像せよ上君主を輔弼し下億兆万民に政令を布き一國の政機を掌握する大宰相の職位ハ嫦娥窈窕たる婦人の蹤襲する所と爲るともありぬべし六韜三略の秘卷を懷にして敵を千里の外に攻むるの謀を講ずる帷幕中の人ハ婦人の方却て多數を占むるともありぬべし何々爵の夫人ハ最多數にて上院議長に當撰せられ何々夫人ハ下院議長の任を承諾せられたりとのことを新聞紙上に見るともありぬべし某寡婦ハ何縣知事に某氏の令妹某氏の令孃ハ郡長或ハ戸長に當撰したりとの報に接することもありぬべし銀行會社の役員ハ男子よりハ婦人の方善く適任するとの說實際に行ハるゝに至るべし戸主ハ獨り男子の占有物にあらざるに至ろこともあるべし以上ハ余輩が十九世紀の今日に在て今後幾久しき年月を經たる行末の世の有樣の想像に過ぎず其說く所寧ろ架空の妄說に似たれども然れども余輩ハ深く架空の妄說に非らざるを信ずるなり本論の首に於て述べたる如く人類固と神明の靈智を備ふるにあらざれば未來の事の如何に爲り行くべきやハ勿論云ひ能ハざる所なれども天理常數の及ぶ限りハ之れが豫測推定を爲すこと敢て難きとに非ざるなり

偖余輩が說く所の如く社會果して男女同職の世と爲り男女共和治國の時代と爲りし後ハ最早變遷ハ無かるべき乎、此有樣ハ何時までも打續くべきものなりや、若し此後變遷あらば如

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

何に爲りゆくべき乎。是れ甚だ必要なる問題にして余輩の茲に論究せんと欲する所なり凡そ物の堅硬質を帶ぶるものは同質即ち堅硬なる物に觸擊すれば彌激烈なる作用と起すも其反對質即ち柔軟なるものに對すれば其激烈なる作用力を消失す例へば彼の金石と破碎する彈丸の如し其堅硬質に觸擊する時は之を破碎齏粉するの力と有するにも拘はらず之を柔軟質に加ふれば少しも其激烈力を現はす能はざるなり蓋し激烈力は同力相擊に起るものにして決して偏力隻擊に起るものにあらざるなり天の霹靂、海の怒號、空氣の暴力の如き皆な相擊の理に因らざるはなし婦女子の勢力彌々強熾を極め男女同職の世と爲りたる後は如何なる變遷を爲すべき乎想ふに余輩は以上述べたる同力相擊の理に據て變遷すべきを信ずるなり即ち男女同職の世に至らば決して今日の如く男子は女子を庇保するの必要あらざるべし女子も亦男子の庇保を受くるに及ばざるべし何となれば女子既に智識才藝に於て男子に劣る所なく同職同置位に達し男子の爲し能ふ所のものは女子も亦之を爲し能ふの權力才藝を有すればなり凡そ親切愛情なるものは他の者の力己れより劣り万事己れに寄りすがらんとする者に向て發するより深きはなし彼の親子の關係を見よ其襁褓兒童の時に在ては自分の力にて禍を除き福を取る能はざるがゆゑ慈父母慈の已れ等の權利を殺ぎ幸福快樂を棄てゝ庇保慈愛するにも拘はらず其既に成長せる後は禍福利害一つに其子の意に任ずるに非ずや襁褓兒童も子なり成年も子なり然るに其慈愛心に厚薄の差あるは何ぞや故らに襁褓兒童を慈愛して成年と忌憎するにあらざるなり是れ即ち成年に達すれば彼れ既に同置位、同力を有し禍を排し福を求むるを得ればなり

女子の置位果して此の如くなれば男女の關係稍々冷澹には赴かざるや男子の之を愛するの情は稍々游らぐには至らざるや想ふに其關係啻に茲に止まらず同力相擊の作用を起し來て互に軋轢し優者勝ち劣者敗るゝに至て男女の權力置位に復不平等と生ずるに至らんと余輩は理論上より推測して甚だ誤らざるを信ずるなり

（完）

◎中外新報

◎東京慈惠醫院　皇太后宮には東京慈惠醫院の事に御心と寄させられ去る頃同院幹事の貴婦人方が參內して御機嫌を伺はれし折にも同院の患者施療の事と御尋ねあり幹事の方々よ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

り親しくその摸様を奏聞せられたる由に承はりぬ

○學校教員心得法　文部省にては今度學校教員心得法と云ふを起草せられ近々の内發布せらるゝ由

○女學校新設　伊藤伯爵夫人、松方井上の兩夫人等の發起にて今度女業練習所と云ふを設立せんと婦人慈善會員の重立たる貴婦人方に謀られしに多くの賛成者もありたれば彌不日創設することに決定せし由なるが此練習所は養蠶、製糸、機織、裁縫等の事を練習せしむる一の女子職業學校にして貴賤を問はず廣く有志の婦女子を入學せしめ殊に貧民の姉妹には謝儀なくして入學を許さるゝ筈なりと

○府下の小學校　は何れも殘暑に掛けて夏休と爲す筈にて來る十日或は十五日頃より皆三十日間つゝ休業する由又休業後よりは高等科に英學の一科を加へる都合なりと聞く

○華族女學校　同校は眞の假普請にて永續の見込なく殊に皇居落成の上は時々　皇后宮親臨の御途も遠ければ今度赤坂見附の舊雲州邸跡の空地へ改めて新築せんとの議ありて目下その圖面の取調に着手中なり猶それまでは今の校舍にて間に合せる都合なれども差向狹隘なるを以て假普請にて增築に取り掛りたるよし

○少女の豫言　或西字新聞に見えたりとて去る廿七日の時事新報に載する所を見るに米國コンネチカットのブリッヂポルトにモセラ、プラオトと云へる今年九歳にて容色比類なき一少女あり不思議にも能く未來を豫言し分毫も違はずとて米國の各新聞は何れも唱道する所なるが怪しむべしその豫言する所は唯ろの事の喜樂に屬するものゝみにして憂苦に屬することは絕て豫言せずと云ふ其二三を擧れば一日某婦人は此少女に尋ねて妾の夫は今ロスエンヂルスの地に滯留中なるが夫の書面に接するは何れの日なるべきやと云ひしに答て今日の晝頃には屹度書面到着して中には二十弗の郵便爲替券あるべしと云ひしが果してその言の如くなりしと又其後或火曜日の事なりしが少女はその母に告げて今日の晩方にはコルンウオールより叔父母の來る可ければ晩餐の用意し玉へかしと促せしに母は戯言とは思へども言ふに任せて待設けしに豫言に違はず晩餐頃二人は途に疲れて訪ひ來りし由又或日其父プラオトは捕漁せんとて家出せしかば少女も川邊の景色の面白さに乘じて西に東に逍遙して父に先ち歸宅せしが母に告げて云へるやう最早父も歸宅し玉はん魚籠の中の獲物は鰌十一尾なるべしと云ひ居りしにプラオトの歸るに及んで見も問もせぬ少女

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の據言が果して更に違はざりしと不思議な娘もあるものかな

○埼玉婦人會　此程同縣知事吉田君の夫人其の他二三有志婦人の發起にて埼玉婦人會と云ふを設けんとて同志を求められしに六十餘名の賛成者ありて日ならず發會式を行はるゝ都合なり

○教育協議會　大坂西區役所にては此度教育協議會といへるものと設けて明六日より開會し區長立石包正氏の諮問に對して小學校教授法管理法等を協議する趣なるが會員は同區役所の書記二人、同區小學校長及び同心得の中より十二人、小學訓導の中より二十五人、私立學校主若しくは教員若干人なりと云ふ

○少女の賣淫嫌疑事件　英京倫敦りーゼント街に於て警察官が或少女を賣淫女なりとて捕縛したる事件より下議院の議論俄かに佛騰して內務大臣は爲めに辭表を差出したる噂は近頃頻りに唱道する所なるが今去る二十八日ガゼツト新聞の報ずる所に據れば捕縛されたる少女はその名をカツスと呼び生れは田舍にて三週間程前始めて倫敦に來りりーゼント街の西北なる髭屋の召使となり居りし者なるが一日夕方同街を逍遙しつゝありしに忽ち警察官の爲めに賣淫女なりとて捕縛せられ終夜拘留所に留め置かれしに豫て徳行の聞えある少女の主婦は少女の無辜と陳て放免せられんことを請ひしも却て大に叱責せられ暴行さへ加へられしが翌日法廷に出て罪狀を尋問せしに一の證據とてはなけれど唯警察官が屢々實見したりと宣誓せしより係官ニユーマン氏が雇主婦が辯解して少女が外出せしは今日が始めてにて殊に田舍育ちの品行方正なる者なりと陳ずるも聽かず少女に向ひ來午後九時過はりーゼント街を往來すべからずと宣告せり倫敦市民は一度此事を聞や甲唱乙和し憤激大方ならず下院にては內務大臣に質して警察錄を視れば果して證據もなきに賣淫女なりと記しありしかども大臣は其警察係官と糺問せんともせず之を辯護せしより議論俄に紛起し倫敦の諸新聞は其主義の何たるに論なく何れも筆力を盡して大臣の非を難し又下院にては翌日更に論難を始め議場も震動する計りに喧騷せしかば大臣も遂に屈伏して係官の處置を吟味することとなせり斯て警察官及び係判官は高等法院に引致せられしが多分相當の刑罰を受ることとなるべし之が爲め倫敦府內にては市民各所に集會を開きたるに係官の奮惡數多露顯し無辜の良民を脅嚇拷問するとも折々にて殊に警察官は賄賂を貪り時々不當の處置多く方正なる婦人にして多く縲紲の

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

辱めを受無頼の淫女は却て夜間の通行勝手にして怪まるゝとも少しとの由普く人の知る所と爲たれば是等の罪科も亦一箇條れるべく議員の中にもケーン氏の如きは或人の偵知する所を聽けば斯る事は警察官に珍しからず唯世に事實を表白するを耻て云はざる者多きによるのみと下院に於て明言したる由にて是も内閣の弱點として指摘せらるゝところ是非もなき次第にして倘ほ英國にて輿論勢力の强大なる其一斑を窺ひ見るべし又十一日の同事件審問にて數名の警察監督官は斯く證據の有無に拘はらず警察官一己の專斷によりて決行せしと屢々なりしと證明したる由

◎學藝一斑

○心意發育論（續稿）

進化の理論　前段の終りに於て述へたる一理に據て見れは或は格段なる心意の狀態を生する所以の事情の中經驗、發達、遺傳の三事あるか上に又此遺傳の因て來る所の者あるを知るを得へし即ち最遠の祖先より格段なる一人に至るまでの間の代々世々の經驗是れなり何となれば遺傳の元は經驗にあるを以て（度數の多少に因て氣習の淺深遺傳の定不定をこそ異にすれ）一旦經驗したる所の者は皆な必す幾分か痕跡を其心意に止めざるはなき理なるが故に世々代々受くる所の經驗の度數幷に種類の增加するに至るに從ひ人の遺傳に據て祖先より受くる所の偏向の心意に潛在する者も益々多きに至るへき道理なればなり設令は吾人の如き開明の人こそ度數に關する祖先世々代々の習性を受け繼ぎたるが故に容易に數理を解せど雖とも此經驗の倘ほ未だ多からず其痕跡の鞏固ならざりし時代に於ては決して今日の如くならざりしなるべし現今野蠻人の數理に暗きを以ても知るべし豈に獨り數理のみならんや其他無形の理に關する事物に至ては概ね然らざるはなし例へば牛を捕へ足を洗ふ等の語を有して單に洗ふと云ふ語を知らざる者あり又兒を殺す敵を殺す等の語はあれども單に殺すと云ふ語なき蠻族もあり斯る次第なれは今日格段なる一人の心意の狀態に先だつ狀態にして倘も之に影響を及ぼせる者を悉く觀察せんと欲せば其最遠の祖先即ち人の禽獸と群を同ふせし太古の有様より世代を追ふて開明の域に進んで聚落を爲し部屬を爲し社會を爲し國家を搆造するに至るまでの種々の經驗を受けしに隨ひ人心の漸々變遷しさる事實を觀察し以て其間に一定の次第あるを知らざる可らず是れ亦人心發育論の必

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

要なる所以なり
茲に心意發育に係る理論中既に學者の認めて以て確乎動かすべからざる眞理なりと爲す所にして而かも教育上大關係ある者一あり何ぞや曰く一個人の心意發達の次第は全人類の心意開化の次第を追ふものなりとすると即ち是れなり詳しく云へば人類の最も上代に經驗したる所に生ずる氣習は一生の最も早き時代即ち幼穉の時に現はれ中頃に經驗したる所より出づる氣習は中年に表はれ最後に經驗したる所は老年に露はるゝこと是れなり此の如く教育學中に全人類及び一個人の成長と題する一段あり其要領を擧ぐれば曰く初め幼穉の時に於ては其自然に對して無能なる其知覺の遲鈍なる其道理の感覺の爲めに壓倒せらるゝに及び其觀念思想の發動少しも曚昧時代に異なるとなし然り而して其漸々發達して成熟するに至るに於ても亦人類の開化と同一の程度を經過せずんばあらず即ち先づ自然として主たらしめずして寧ろ之れとして從たらしめ次に五感をして鋭敏ならしめ次に思念をして定限統紀あらしめ靈智醇化の程度をして一層高尚なる域に進ましむるの楷梯たらしむべき者なり

（完）

◎賢女傳

○花がたみ　第一回

此君園主人

人の心の世につるゝにや世が人の心につるゝにや元治慶應のころは殺伐の氣國中に滿ちて穩しからぬ事のみぞ多かりける今日しも五條天神の祭りとて賑はひは人の山を築き人の山は埃の海に沈み是を上野の高きより見れば只黑き物がむく〳〵と蠢くのみ亦此の中に妍きもの俠なるもの勇なるもの嬋けるもの有ると知らざるなり此のぞよ〳〵ぞろ〳〵の黑き塊まり忽ち四方へ散乱し宛かも蜘の子を散らすといふに似たり偖ろの騷ぎは何より起りたるぞと云へば群集の中を人もなげに押歩く若侍四五人まくり袖して刀の柄へ手を掛け醉狂ひて人を弄り事かなあれと願ふ樣子に怖れて道を避けぬ者なし岡村といふ料理屋の角にて若き女連の出るへ逢ふより我々と共に來て酌をせよなど迫りて道を塞ぎたり斯るところへ年のころ二十三四丈高からねど骨たくましく色白くして眉淸き武士垢づて襞さへ崩れし小倉の袴を着けしが此体を見て行き過ぎ兼しや立止まりて詞を入れんとせし氣色なりしが急ぐ用事の有ればにや只屹度打ち眺めしのみ其まゝに立ち去りたり中の一人

四百二十七

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ハ此体と早く見て今の案山子侍が面付ころ憎けれ彼を捕へて弄り物にせん夫よ此の溝へ打ち込みて勇氣の程を示さんなど酒の加勢の友頼み先の女を打捨て一人の武士の跡を追ひこれ〳〵酒一杯進め申さんしばらく待ち玉へヤイ〳〵待てと云に何故待たぬ我々が怖しくば三拜して小路に避々よと叫べど聞かざる面持して足を早めるハ臆したるよと勝に乘じて悪口雑言一人の男ハ走り掛つて鐺をしかと握りたり彼の侍も早や堪忍なり難しと思ひけん鐺と返せば酔漢ハ脆くも倒れて顔に砂取巻たる見物人思ハずどッと笑ひければ跡の四人ハ大に怒り抜きつれて切て掛れば搔潜つて抜き合せ先に向ふを売竹破り横より來るを腰車侮とり難き手の内に馬鹿者共ハ辟易し進み兼ねたる其うちに血刀手早く鞘に収め足にまかせて走りけり五人ハ互ひに疵人を介抱し彼奴と切捨ねば我々が一分立ずいざ追ひ捕へんと抜刀を振り一人の跡を追ふたりけり

杉の垣根もまばらにて奥まで透ける侘住居實に儘ならぬ浮世ぞと思ひ入谷の里はづれ立ハ蚊柱倒れたる石の地藏ハ此世から人を渡して小溝の橋應化能身の尊さも泥に塗れて夫としも知らぬ凡夫に祟りなし功徳ハ深き淺草の觀世音に父ハ參り留守ハ娘の只一人耳に祭りの笛太鼓眼に華美衣裳の移らへど心ハそれよ鶏籠父が樂しみ是のみなれば餌と養はんとて立つ折から息も忙しく走り入る一人の武士卒爾なれど只今人に追はれて危急に臨む御浪人と見かけて頼み申すと云ふ間も遅や表の方の人音に娘ハ後を指さして早く逃げよと教ふれば一禮する間もあら有難しと若き武士ハ裏より田甫ごし千束村の方へ逃げにける娘ハ實のなき長持の葢をごち〳〵錠前を下さんとする所へ彼の暴漢ハ込み入りてサア突止たぞたしかに見付たぞ我々の仲間へ傷を負はして逃げたる奴を隠まふハ身の上知らず其の長持の葢を開けよ左なくバ立拂ッて開かうかと詰め寄れば娘ハ態と狼狽え体をなし此の長持の中ハ仔細あッて他人にハ見せられません人を隠まひしとハ覺えのないこと。左様云ふ詞が早や證據人に見せられぬ長持の中の正体を此上ハ手ごとに改めんと立寄る一人を突き倒しこれハ二腰帯び玉ふ方方にも似合ひ玉はず假にも人の城といふ家の中へ案内もなく踏み入り玉ふのみならず女一人と侮りて長持の中を改め見んとハ慮外なり浪人なれど嗜みの長刀強て長持の中を見たくば覗く時に御用心と壁に掛けたる長刀の鞘を拂ッて立向へば女とば相手とハ仕がたし如何ハせんとためらふ所へ慨て立歸りし娘の父此の体を見るより間へ立ち入り過ちあるな人々氣

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

を静めよ娘父が戻ッたれば驚く事ハないぞナント云ふ此の長持へ人と隱せしとか娘よ其の覺えあるか無ければ何とて見せぬぞ耻も外聞も其方の身に換へられず大塔の宮の般若櫃にハ似合しからぬ兇長持疑ひ晴しに改められよ○云ふにや及ぶと立寄りて氣早の男が蓋取ずて〳〵轉覆せば中より出るハ椽の取れたる火鉢弦のなき鍋是ハとばかり驚く五人老人も娘も貧を耻ぢて顔を上げず一同ハ疵口の鉢巻を外し段々の無禮過言誠に以て何とも以て申譯なし全く我々が思ひ誤まり平に御宥免下されと手を下ぐるに老人ハ歎息し御疑念晴しとあればそれにて此方も安堵仕る偖々老がなき長持の中御目にかけて耻ぢ入りいと云はれて一同手持なく疵の

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

痛みを今さら覺え面目なげに立去りけり跡に父子は目と目を見合せ涙と底に湛へたり父は表の枝折戸を鎖し偖も危なき事なりし觀音よりの歸り路我家に騷動ありと聞き宙を飛んで歸りしが何とて其方は長持の中を見せるを拒みしぞ氣の立ちたる無斟辨の奴等どんな間違があらうも知れぬ此身になれば貧は其分さして耻るに足らぬ事をと云ふに娘は手をつかへしばらくも貴方に御心配をかけて濟みません實は彼人達の疑ふ通り迯げて來た方を助けました。夫は如何して。今まの先き若い侍が一人驅け込んで急場ゆゑ救ッて呉れ兩腰さす人と見て賴むと有る其の樣子更に狼狽たりとは見えず惡事をなして迯げしとも見えずよし何にも賴むとあるに否とは云へず直に裏より田甫へは落しましたが只其儘では又跡を追はれて難儀ならん少しの暇の入るやうにと態と長持に人有氣に取つくろひましたれば案の如く疑ひて見せよと云ふと見せまじと隱せばいよ〳〵夫と定めて餘ほど暇を引止めましたと物語ればホク〳〵悅てぴよく仕たり謀りすましたり左る急場に臨みては平生心掛あるものも動轉して分別を爲し兼るに更に怖れず慌てずして追手の足を止めし思慮此の父も及ばぬぞよ左るにても思慮なき若者ども世は騷がしき事なりと話し其日も暮果ぬ

◎論説

左の演説は去月十日芝公園地内の紅葉館に於て催したる東京金蘭會(同會の景況は本誌第六十六號に詳記せり)の席上にて末松謙澄君が述べられたるものゝ筆記なり

○金蘭會に望む　末松謙澄君　演説

兩三日前此會の幹事石橋君が拙宅に來られ十日は芝の紅葉館に於て東京金蘭會を開くに付來てくれとの御案內ゆゑ今日參りたるに突然演説の御注文でそが私は土子君(是れは末松君の前席に演説した人なり)の樣に一週間前から約束があッて況して大學の圓朝と云はれる程の人とは違ひ辯も餘り宜しくない方でありますれば旨い演説をして諸裙諸君の喝采を得んことは迚も思ひもよらず一躰是れは甚だ不公平な事で幹事君に理窟を云はなければならぬ所なれどもそれは昔風の書生社會の議論であつて酒を飲んで喧ましく噪ぐと違ひ最優しく質直にせねばならぬが本會の主意であるから理窟抔云ふて幹事君に談じ付る事は差措きて先づ私が此金蘭會に望む所を少し計り申し述べませう

偖私が茲へ參るには途中松の樹や杉の樹が澤山ある又間に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ハ竹もあり柳もあッて種々樣々の樹木が並んで居りますがそが中に松の樹などハ實に勇壯にして其勇壯の内に何やら優ひ所がありますヌ竹などはシナヤカにしてキッパリした所が見える昔のふ能く云ひますが竹に雀はシナヨク宿るとある樣に如何にも外面からハ優柔であれどろの性質ハ實に堅いもので柔なる中に儼然たる所を含んで居る斯く種々なるものが雜り合て一躰の好景色を成そが人間の交際も此の如きものでわらうと考へらる然るに一般に就て觀まするに兎角世間で開化風を談ずる者ハ男の本分ハドウ云ふ者である女の本分はドウ云ふものであると云ふ事を違へて居る樣に思ハれますが全躰男の方ハ松の如き勇壯の氣を帶びてろの内に優しき所がなくてハあるまい又女の方ハ竹の如くシナヤカにしてその内に堅い處がなくて叶ハぬものなり即ち竹や松が相待ッて美麗な景色を成すと同樣で男と女と相須ッてろして世界の美觀を成さねばならぬ譯であります 私ハ永らく歐羅巴に居りましたが日本へ歸りて見れバ丸で其樣子が以前に變ッて居りますが日本の總ての事物を歐羅巴風に仕樣と改良して往くのは實に望ましき事で御坐ります併しながら私が大に失望したのハ先づ第一に日本人が男女の交際に就て女ハ如何なるが宜しい男ハ如何なるが宜しいと考へて居るか之を見んとて小新聞の小説などを讀んで見ましたが丸で間違ッて居る事が多いと考へるろハ何故と云ふにその小説中に現ハれ居る女を見ればオテンバか或ハ生意氣か或ハお饒舌かのみを寫してそれで緣談と云へば自由結婚、自由結婚とは親の心をも考へずよ一概よ己の勝手自儘に婚姻する事の樣に思ひ居るやうで御坐りますドウも男女の交際に斯樣な間違ッた風習がわッて實に仕方がないのは諸裙諸君も已に御存じてありませう

（未完）

○歐洲の商業敎育（前號の續き）　マリシヤル君演説

是等の商業學校ハ各國に御坐りまそが孰れも皆商業大學と申す譯にハ參りませぬ佛蘭西の商業高等學校と白耳義のアンヴエルス商業大學が一番高等の地位にあるものと思ひます白耳義の商業大學ハ千八百五十三年に出來ました是ハ則ち商業大學の模範となり又商業大學を組織したる第一の例となりました其時でも日耳曼にハ商業學校がアンデルライスと云ふ處に立て居りましたが商業大學校とまでにハ至て居りませぬ商業敎育ハ斯の如く政府の方でも敎育に熱心する人でも最も必要であると申ますが然らば商業大學で如何なるものを敎へるか

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

商業敎育ハ如何なる組織であるかと云ふとを研究しなければなりませぬ

是より此事と簡單に説明致しませう先づ商業敎育と云ふものハ二部に分れます一ハ理論の部、一ハ實際の部であります又此理論の部を二つに區別して第一ハ直接の利益ある商業、直接の利益ある學術、例へば商業算術即ち算術でハ純粹の算術を敎ふる代りに商業上の勘定に適用するものを敎ふる例へば銀行の計算、鐵道會社の計算に用ふる商業算術を敎ふるのが第一又簿記學ハ商業社會にも工業社會にも又行政部にも必要で御坐ります是が第二、第三に必要なるものハ商業上の往復又次に必要なる學問ハ外國語で御坐ります自分で外國と取引をするにも必要であり又自分が其辭を用ひずとも外國の何れの處に如何なる物産があると云ふとと知るにハ外國語を知らなければなりませぬから第四ハ外國語であります

右ハ商業敎育の理論の部にて第一種の直接の利益ある學問のことを述べましたが是より第二種の方で間接の利益ある學問を申ます此間接の利益ある學問ハ第一商品の學問、商品と申しますれば工業上の産物、農業上の産物にして或ハ化學植物學に依て此品物ハ斯くして拵へると云ふ都て此物品に關係しましたことと學びます第二ハ商業地學であります商業及び工業の地學を學べ孰れの地に如何なる物が賣れるか孰れの地にハ如何なる物が生ずるか商業の地方、物産の地方等が分り運輸の便ハ何處より何度へ郵便が出來て居り電信が通じて居ると云ふ如き事を知るハ商業地學であります第三ハ經濟學であります經濟學がなければ商業取引の摸樣が分りませぬ故に經濟學ハ必要であります第四ハ統計學でありまして統計學がなければ如何なる處に如何なる物産が幾許あると云ふことが分りませぬ統計學ハ事實を集めて斯の如き理由であると云ふとと説明する學問で御坐ります第五ハ商業及び工業の歴史であります商業工業歴史ハ今日の世界ハ如何なる有樣で成立て來たか如何なる有樣で商工業が盛になりたかと云ふことが分ります商業工業の沿革を知るにハ商業工業の歴史に依らなければなりませぬ故に商業工業の歴史ハ必要なりとす第六ハ關税に關する法律規則でありまして關税に關する法制ハ最も必要であります之を學びまするにハ關税の理由、貿易上の條約又ハ關税に關する法律規則ハ如何なる結果がありて斯の如き法律を拵て斯の如き景況があッたと云ふことが明白になります第七は商業であります殊に海上の商法と知ッて居らなければ

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

なりませぬ之を知らなければ商業の責任が明白ならぬゆゑに能く精しく知つて居らねばならぬ又商法の外に領事に關する法律を知らねばならぬが領事に關する法律ハ都て商業の爲めに設けたるもの多く御坐ります殊に商業を保護する職務ハ領事の職務でありますから此法律ハ是非とも學ばなければなりませぬ又船舶の使方、船舶と商業上に使用する法及び船舶の製造法を知らなければなりませぬ只今迄申上たのハ商業敎育の理論の部でありますが猶是外に商品博物館即ち商業上の見本を備て理論で究研する處の參考に供します其外化學上の試驗所がありて化學の作用に據て商品の臧否又ハ性質を究研致します又商業上の文庫即ち商業に關する書籍を供へ理論の參考にしますその外只今申しました船舶の使用方抔ハ鐵や木を以て小さく船舶を拵へて其使用方や品物の積場所と知る等の事を學び又商法の盛なる地方にハ旅行してその實際を研究することになりて居りますその外商業上の講義とか講談とか時々ありまして商業の實驗ある人々が集つて後生の心得の爲に演說するともあります只今迄申述たのハ商業敎育の理論の部なり是より實際の部に移てお話ますが實際の方ハ諸君の厭倦を來たその恐あれバ簡單に述ます．（未完）

◎新作物語

○閨の徹夜燈　第二篇　南翠外史　述

第四　二人の少年二人の少女（六）

一筆申し上げまゐらせ候秋とハ申しながら殘暑去り難く候處其御許樣にハ皆々樣御揃遊ばされ時候の御障りもなう御健祥に御座遊ばさせられ候事數々御目出度存じ上げまゐらせ候次に私し事無異暮し侍り候まゝ憚り樣ながら御安もじ遊ばされたく候然れば私し事も此節ハ懸離れ居り出入も心に任せ候ハねバ存じながら御無沙汰にのみ打過ぎ御師匠樣御二方の御機嫌も得伺ハず其御許樣にもいかゞ御暮し遊ばし候や吳よりハ度々御嬉しき御音信之れあり候事と陰ながら御懷かしく存じ上げまゐらせ候お靜樣も此のほどハ御病氣のよし承まハり兩三度御見舞として使ひさし上げ候ところ大きに御勝れ遊ばし御床上も近々のよし仰せ越され安心致し候お靜樣と申し私しと申し日々御蒼蠅うかゞひ候ものゝ打絶て御音信も申し上げず候ゆゑ嘸かし御淋しく入せられ候はんと存じ候私し事も四五日にハ忌ども果て候間まゝ〳〵御蒼蠅御伺ひ申し上ぐべくと存じ夫のみ心待に相待申し居候忌中失禮にハ存

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

じ候へども御懐かしさの餘り御機嫌御伺ひ上げまゐらせまづハ心のみあら〳〵示し上げまゐらせ　めでたくかしこ

八月二十五日　　敏子

おしげ様

御もとへ

猶々時候御大切に遊さるべく末ながら御師匠様御二方禮二郎様へも呉々もよろしく御傳へ下されたく一意御願ひ上げまゐらせ　母よりも御文申すべき筈に候へども取込の折に候へば私しより申上くれ候やう相聞え申候かしこ

ト先づ一通の書簡とつくりてお福美ハ之れをお覺に示し「サア是からまた話しを始めませう能く氣を注めてお聞なさいヨ　お敏が態々使ひをして送達せしめたる玉章と見るよりお繁ハ最と喜ばしさに早速其の返事して元の文筥に納め眞紅の紐に封印して之れを使ひに遞與したるのみ彼の書状と携さへて母が居室に赴けバ幸ひ父も禮二郎も其の間に集ひて四方八方の雜談に殘る暑さを凌ぎ居ればお繁ハお敏の文と出して

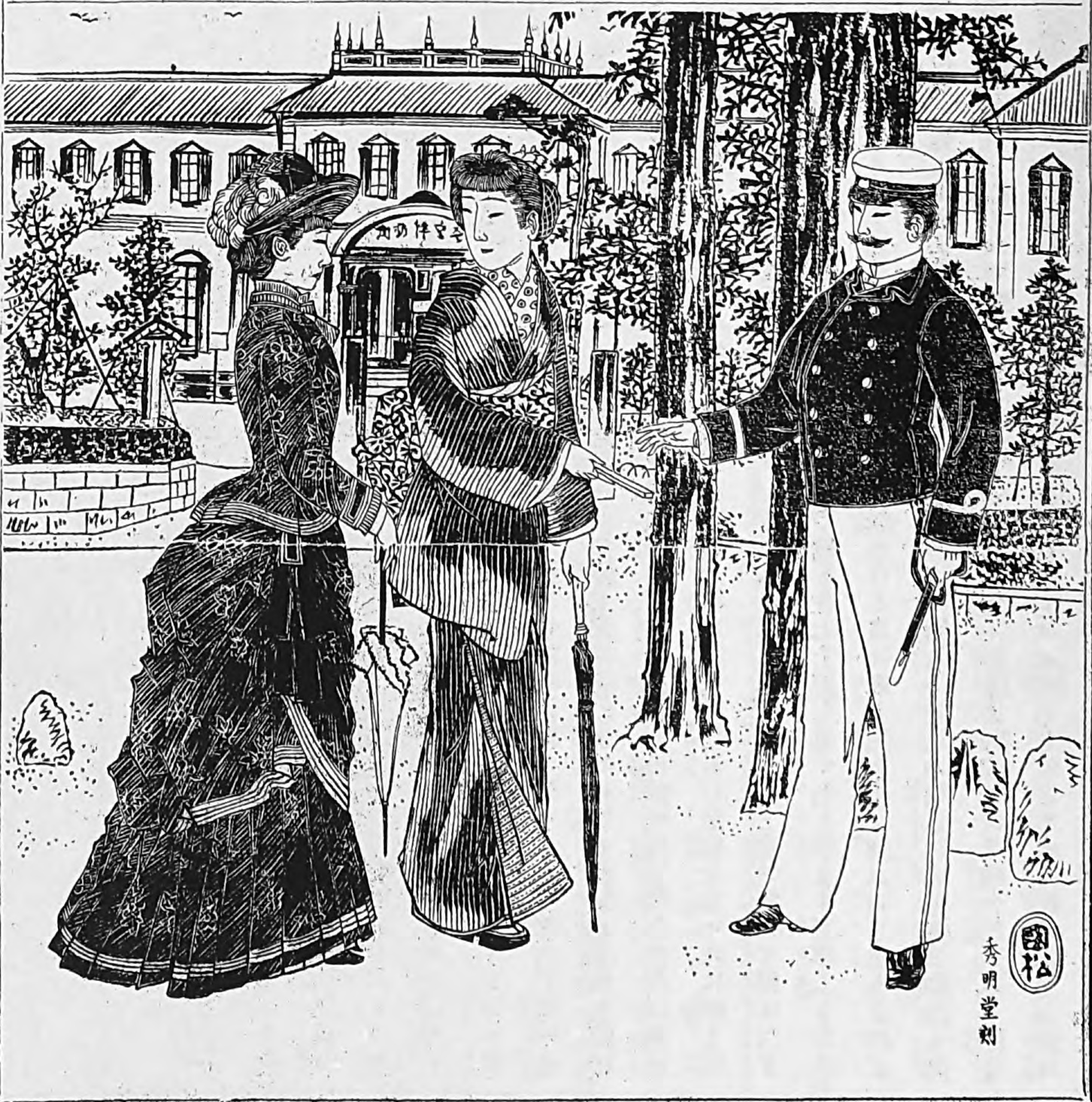
阿母さまア　ノ堀留のお敏さんの處から唯今お文でございまして貴方にも阿父さまにも禮さんにも宜しくとの御傳言でございます妾しも直に御挨拶の御返事を差上て置ました

お花　ア、爾うカヱ彼の孃も誠に利口なお兒だが阿父さんが御死去ンなすつたら定めて後が御困りの事だらうお可愛さうに何うも女親ばかりでハ萬端に氣が着かないから

清齋　海野の孃ハ誠に敏捷で物覺えが宜かつたが惜い事にハモウ稽古もして居られまい彼處の家ハ隨分舊家でハあるけれども一時餘程むづかしく成つたのを先達て死亡た盛一といふ仁が中々の才子だから何うか彼うか商賣を盛んにしたので、夫に何ださうだ、お敏の阿母ハ先代の盛藏の一個娘であつたが彼の娘が出來たのちハ兎角に身體が勝れなかつたさうだが盛一ハ元々手代から養子に正されたものゆゑ能く氣を着けて手の届く丈けハ保養もさせ出來る限りの事ハしたけれど定業といふものハ何んな富限者でも何んな名醫でも致し方がないと見えて彼の孃が九歳の時に實母が死亡つたのだ、今のハ慥か芳町の紅裙とやらで名ハ能く覺えないが何うしても商賣上りの者ハ仕方のないものでマア盛一どのゝ存命なうちハ別に我儘も出來まいけれども是から先ハ彼の孃が定めて困る事だらう、妙なもので出來が悪い娘なら夫れ程にも思はんが學校でも大層に評判をされるといふ事だし此の手紙の書方でも大凡ハ知れて居る手迹ハ兎も角

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

も總てに筆が拔目なしに能く往
届いて居るでハないか何うかマ
ア素性の宜しくない繼母の手に
かけて變にこしくらして仕舞た
くないものだ、ノウお繁
お繁　左樣でございます誠にお可
愛さうでございますヨ取分けて
お敏さんハ妾しい眞味の姉かな
んぞの樣に優しくして下さいま
すから妾しも寧そ實の妹の樣な
心持が致します
お花　思へば思はる〵だヨお静さ
んと言ひ彼の孃といひ揃ひも揃
つたい〵お孃さんで、夫は爾と
お静さんハ何うだらう些とハ快
か知らん何うも彼の孃も御病身
だ御容貌といひ心質といひ誠に
美事な御孃さんだのにチニ
禮二郎ハ側らにありて例の通り人



四百三十五

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

の物語には口出しもせず唯だ父母と嫂との面をのみ目戍居たるが嫂は固より父母までも詞を盡し力を入れてお敏が事を稱揚するに心中躍るが如くうち悦び願ふ事にはあらねども其の繼母の爲めに身を苦しめられなば我れは飽まで實誼を以て彼の嫂の歡心と求むべく那の憂屈を慰藉め遣らんと思へるまゝ何事をか口に發せんと云たりしが聲は舌の根より消えける待には長くとも經つには速かなる日の一週間ばかりを經たりけん今日はお敏が忌ども果て我が方を訪ふとても苦しからぬ日柄なりと思ひければお繁は一日の暇を父母に請ひ受け殊更に二人乗の車を供へて堀留の家と訪るゝにお敏は其の前の日お繁が來るべき通知のありしかば根岸へ赴く序に上野の官舍に在る外國人の教師をも訪問せばやと思ひ美しき洋服に擬製花摽ひしボンチットをも取揃へて一室に在りて待ち居たればお繁の來つるといへる取次を聞くよりも懷かしさに堪やらず轉ぶが如く走り出てお繁の手を握るより早く詞はなくて涙のみ心の眞信を先づ通じたり

夜は例時の時刻となりければお福美はお覺を促して枕に就きしが其の翌る日も事なく暮しさて次の夜となりし程にお福美は何の問答もなく更に物語りを續けざりける

◎家政要報

○西洋料理の簡便法（前號の續き）

○蠣の燒物　ブリッキにて作れる深き鍋へビスケットの屑を振掛け能く洗ひたる蠣と次第に入れ又其上にビスケットの屑と乳少しを振掛け順を追て鍋に充つるまで入れ鹽及び胡椒とバタ少し許りを加へ（是れは美味を增す爲めにするものなり唯バタは人々の好みによりて用ふべし）オーヴァン（ストーフの類）に入れて上皮を程よく淡黃色に燒くべし又鍋は前以て油を鋪き置くなり●蠣の厚燒　蠣十二に鷄卵六つ乳一合バタ一匙鹽及び胡椒を用ひ先づ初めに蠣と卵黃と蛋白を別け蛋白の泡立ちて凝まるまで攪廻し揚鍋に油と敷きて火に掛け熱したる頃に卵黃を乳と攪交せ鹽及び胡椒を加へ次に蠣と解したるバタを少し入れ終りに右の蛋白を交せ攪和て鍋に注ぎ暫らくしてその緣を少しく返し見て若し程よく出來上りたれば上と下にし煖めたる皿に取り熱き中に喫ぶ可し然らされば佳味を失ふなり●肉の摘入　是れは病人に宜しき食物なり先づビフテーク一斤を薄く切り出刄の背にて叩き筋を取り除き純肉を小さく丸め鍋にバタ少しを敷きて火に掛け熱せしめ丸

四百三十六

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

此たる肉を投て斷えず旋轉のし出來上りて皿に取り擢及び胡椒を振かけて冷めざる內ゑ食すべし●燒肉　ビッテーク一斤を(四五人に供するには是にて充分なり)能く洗ひ(餘り大き過ぎるときは二切に斷るべし)出刄の背ゑてよく叩き鍋にバタを敷て火に掛け熱したる頃に肉を入れ屢返して燒くべし又金網にて燒くもあれども汁を出すゆゑ鍋にて燒くを善しとそ●焙り肉　脂の少なきよき焙り肉を長く淺き鍋に入れ水二合程注ぎオーヴアンへ置き凡そ二時間も燒き一二度返しバタを附け出來上りて後大いなる皿に取り肉を薄く切り冷して食するもよろし

(以下次號)

○氷の騰貴　函館天然氷は賣出の當時一斤九厘位なりしに其後一錢五厘となりしが此頃の暑氣にて兩三日前より俄かに二錢にまで引上げたるより忽ち他の玉川野州等の氷にまで影響し孰れも三割五分方も騰貴したるよし

○稻作の景況　本年の稻作は苗植付の頃より暴風雨なく生育最も宜しければ秋穫まで甚だしき風雨さへなくば申分なき豊作なりと

○果實の核を小さくする法　農林學校に於て先年より試驗中なりし果實接樹法は果實の核を小する趣向にして本年三回の接樹と二回の接樹との果實を撿するに三回は二回より小さくして桃核の如きも僅かに豆の大さとなれり若し是より兩三回も接樹せば餘程小さなものとなるべしろの果實は非常に甘味を增すとの事なり

◎御伽草

○數學問題

時計あり一晝夜に十六分づゝ進めり今午後十時に於て平時に合せ置くときは翌日正午に於て時針の指す所幾時なるや(雲州松江春寒女史出題)

左の詩は誰を詠ぜしや(岡山秋蝶園主人出題)

瑞夢氤氳繞紫宮。金剛峰下出眞雄。千里共蹶孤城守。萬乘重安一策功。膽尙先亡炎德冷。飛雲忽滅宗祀空。將門智勇人多少。白歲誰如三世忠

左の歌は誰を詠ぜしや(出題者同上)

梓弓まだ見まほしく思ひしをあはれ小松のかれにけるかな

○六十五號數學問題答式

(16×2)÷8=4　答四寸(答者)東京芝口壹丁目水野隆一、千葉縣千葉淸水春子、下總香取郡よし田村神保萬、兵庫縣尼ヶ崎矢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

嶋兼子

○六十五號考物の答

川、雀、梨（答者）東京々橋區新富町林二木、長崎港濱町瀧子、仙台の一書生、愛知縣名古屋武平町坂田好子、信州諏訪金子準藏、東京内幸町壹丁目二番地佐伯のぶ子、武州八王子二ノ宮きさ子、同梅村きげ子、下總香取郡よし田村神保萬

◎寄書

○幼稚保育の心得（前號の積き）岡山秋蝶園主人寄贈

善きことあれば賞むべし　世間の親達を看るに兎角叱ることには能く注意すれども賞めることは忽せにするもの多し會て賞めるも辞儀がよく出來たとか挨拶をよくしたといふやうなることのみにて過失を悔ひたとか譃言を吐かぬとかいふことは捨て置く樣なり是れは甚だ心得違ひのことなり

幼兒には畫の心あり　幼兒は一寸筆を執るも人の顔や犬の形などを畫かんとするものにて此れは指の働作をよくするものなれば何にても畫かんとするものを畫かせ時々は指圖して熟練さしむるを善しとす

強ひて讀み書きせしむ可らず　幼兒に不相當なるはもとより六かしき讀み書きを無理になさしむるときは學問の入口よて力を折り氣を挫き讀み書きとしいへば苦しきことと思ふやうになるべきのみならず心身の生長を妨げるものなれば困難なるものは妄りに強ふべからず

餘り早く入學せしむべからず　學齡來滿の幼兒を強ひて入學せしむるは宜しからず幼稚園の未だ設けなき地にては止むなく學齡以上の小兒と一樣に教ゆることあれど身体の發達を妨ぐるのみならず其課業の困難なるより學校を嫌ふやうになるなり

衣服と洗潔にすべし　世間の親達は幼稚の頭に毛を生ずれば是苦しとて嫌ふを構はず剃りなどすれど大切なる襦袢の洗濯などには少しも注意せぬ者あり斯ては皮膚より出る汚穢の氣が染みて大害を爲すべければ少なくも夏は三日に一度冬は七日に一度ほど洗濯すべし

以上は主人が思ひ付たる箇條の大略を記したるものにて固より近淺なる者なりといへども我が國の親達は此等の事にさへ注意せざる者あり此他實地に就て申さば尚ほ焉よりも甚だしき者あるべきならん令孃の如き既に至當に教育を受け後來母たるの地位に於て眞正の保育を施さるゝと疑ふべ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

くもあらざれども自ら其時と地に臨めば意外に舊來の習慣を墨守せらるゝと世間の通弊なり之を除くハ唯だ令孃の如き方々に望むの外なし知らず令孃よく我が意を滿たさんやいなや偶ま思ふところあり書して之を贈る　（完了）

○獨語（六十五號の續き）

園の造は傳へ聞く惟摩居士が方丈よりも今少し狭くして小さき窓をあけたるのみなれば白晝にも暗く夏は甚だ暑し客人の出入る口は狗竇の如くくゞり匍匐て入れば息籠りて冬も堪難し飲食も人の口に好憎物有るに主如何に心遣ひせりとも口に叶ぬ物と必ず殘さず喰はんとするも苦し左せる事もなき器を珍らしげにほむるも空耻し又物好きとて家の造りより諸の調度に至るまで常に變りて珍らしく優しき事をばすれども茶人の家居は必ず柱なども細く障子の骨迄も風に堪へぬ計に細く或は丸く曲みたる柱を皮ながら用ひ物喰ふも折敷も足の高さを嫌て平折敷を用ゆ都て茶人の好物と云ふは何事も貧しくやつく〳〵しき様を眞似て學びたる者なり茶道の起りと尋るに漢土南北朝の比より茶を飲む事始れりと云ふ唐の代に至りて世に盛に行る盧同陸羽等甚だ之を好めり盧同は茶の歌を作り陸羽は茶經を著はせり其時の茶は或は熱湯と淪し或は煎そ或は細抹となすを抹茶と云ふ熱湯に點して飲む是今の茶人の用ゆる茶なり或ハ細抹の茶を丸となすを團茶と云ふ是も熱湯に點して飲む點茶にハ茶筌を用ゆること今の人のする業の如し陸羽等が茶と煎じ或は淪ずにハ水を撰む事甚し詳なる事は茶經に見えたり陸羽等が茶を翫し有様は今の茶人に似たり陸羽が同時に常伯熊と云ふ人も茶を嗜で精しかりけり李季卿と云ふ人丞相李適之が子にて其身御史太夫の官なりしが天子の使を承りて江南の方に徃き臨懷縣と云ふ所に旅館せしに或人常伯熊が茶道に達せる事を云ひしかば頓て伯熊を旅館に請じて茶を行せけり其時伯熊黃なる衣に黑き紗の帽子と着し手に茶器を持ち口に茶の名を唱へ慇懃に用意して法の如く茶を煎ず見る者眼を抄て是を奇とす茶熟ければ季卿に盃喫て止ぬ夫より江外と云ふ所に至りて又陸羽を請じて茶を行ハせけるに陸羽野服を着て茶具を先に立て行きけるに其作法悉く伯熊に同じ季卿茶とば飲みけれども此人等の仕業を見て賤しき事と思ひければ從者に命じて錢三十文を與へしむ陸羽大に耻悔て是より茶を翫ぶ事を止めて毀茶論を著しけるとかや我國にてハ鎌倉の時五山の禪僧異國より茶と持來りて弘めしが世人さのみもてはやす事もなかりしに室町の公家方義政是を好み給ひ朝夕に是を翫び東山慈照院の銀閣にて茶の會席なり然ども義政は天性奢侈を好み給ひし故茶を翫ぶにも茶室より茶具に至る迄必ず塗物にて美麗なる事を好み給へり今世の茶人の如くならず東山殿の調度とて今に傳るを見るべし　（以下次號）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

●結婚媒妁所

東京日本橋區檜物町一番地河岸通り角

全國何人ニ限ラズ嫁聟養子等媒妁依賴ニ應ズ御來談ヲ乞フ

檜物町　渡邊

教育書專賣所廣告

○理科仙鄉　バックレー氏原著　山縣悌三郎譯補　全十冊　自第一第六既刻出版　定價金二十五錢宛

○理科通志　バックレー原著　山縣悌三郎譯補　全十冊　卷ノ一出版　定價金二十錢宛

○倫理通論　文學士井上圓了著　全二冊出版　定價金七十錢宛

○哲學一斑　大學敎授寺尾壽序　音樂取調掛助敎鳥居忱譯　全三冊　定價三十五錢宛

○教育全史　ペインター氏原著　杉浦重剛譯　全五冊　卷ノ一卷ノ二出版　定價金廿五錢宛

○進化要論　獨逸國碩儒ヘッケル氏著　日本山縣悌三郎譯修　全十五冊　卷ノ一出版　定價金四十錢宛

教育書發兌所　東京下谷區練塀町十四番地　普及舍

●速記叢書講談演說集第六冊　八月一日出版

●每冊定價郵稅共特別割引十四錢（郵券代用隨意）

●但第三冊ニ限リ定價郵稅共七錢

●彗星の話　理科大學敎授寺尾壽君

●小說と演劇との關係　文科大學敎授小中村淸矩君

●行政法大意第三回　內務省參事官宇川盛三郎君

●專修學校生徒卒業式祝辭　元老院議官加藤弘之君

◎雜記●本年九月倫敦ニ開カルヘキ萬國速記法大會議ノ議題要目●全國の速記者に望む●筆記の校正方●

發賣書肆

東京日本橋區通三丁目　丸善商社書店

同本町三丁目　端穗屋卯三郎

同馬喰町二丁目　石川敎育書房

同神田區淡路町一丁目　巖々堂

教育雜誌

七月五日（第二十九號）より大改良一部御入用の向ハ郵券四錢御送付あれハ五千部限差出すべし詳細ハ本誌を見て知り給へ

發行所　東京北豐嶋郡金杉村二百六十三番地　贊育社

舍告

本誌代價前金相切れ候ときハ帶封と朱書に致して御送附申上候に付其節ハ早速御送金被下度候也

積文舍會計掛啓白

本誌代價表

壹冊	正價金四錢	此郵稅弐錢
拾冊	同金三拾八錢	同拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同三拾錢
四拾冊	同金弐圓四拾錢	同四拾錢

但シ東京十五區內郵稅不申請

本舍は御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ雜誌配達不仕事に相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵稅共郵便爲替又ハ通運便にて御送附あらんことを希ふ●郵券代用ハ壹錢切手ニて一割增し●郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込み其爲替券ト本舍へ御送附可被下候　但シ東京十五區內ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

發行所　東京々橋區南鍋町弐丁目拾壹番地　積文舍

持主　松本義弘

編輯人　原口令成

印刷人　初鹿野鉾五郎

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY